

新型コロナウイルスの感染対策として、少人数・申し込み制にて開催しました。ご参加いただいたみなさま、ありがとうございました。観察記録のレポートを作成しましたのでご覧ください。次回11月のてがたんは10月9日(土)で、テーマは「赤とんぼを探そう」です。ぜひご参加ください。10月1日の8時30分から電話での申し込みを開始いたします。

市民スタッフのみなさま、次回の下見は10月3日(日)です。

9月の観察コースと内容

- コース：鳥の博物館→水の館駐車場側路→遊歩道釣り堀前→遊歩道釣り堀沿い広場
 - 観察日時と天気：2021年9月11日(土) 10:00~11:00 曇り
 - 市民スタッフ：4人(北村章子、小泉伸夫、伴野茂樹)
 - 鳥博職員：2人(齊藤安行、小田谷嘉弥)
- ※太字は今月の案内人

観察した生き物の記録

「*」は下見の時にだけ見られたもの

【鳥類】キジ科：コジュケイ(外来種) / ハト科：キジバト / ウ科：カワウ / サギ科：ゴイサギ、アオサギ、ダイサギ、コサギ / カモメ科：ユリカモメ* / ミサゴ科：ミサゴ / カワセミ科：カワセミ / カラス科：ハシボソガラス、ハシブトガラス / シジュウカラ科：シジュウカラ / ツバメ科：ショウドウツバメ、ツバメ / ヒヨドリ科：ヒヨドリ / エナガ科：エナガ* / ムクドリ科：ムクドリ / スズメ科：スズメ / セキレイ科：キセキレイ、ハクセキレイ / ホオジロ科：ホオジロ / 家禽：ドバト

【両生類】ニホンアマガエル、ヌマガエル*、ウシガエル

【爬虫類】ヘビの仲間*、ニホンカナヘビ*

【昆虫】トンボ目：アオモンイトトンボ*、コシアキトンボ*、コフキトンボ*、シオカラトンボ*、ウスバキトンボ* / バッタ目：オンバッタ、コバネイナゴ、エンマコオロギ、ツツレサセコオロギ、モリオカメコオロギ、マダラスズ、シバズ、キンヒバリ、クサヒバリ / カメムシ目：アブラゼミ、ミンミンゼミ、ツクツクボウシ、ヨコヅナサシガメ、オオフタホシカメムシ、イネクロカメムシ*、シロカイガラムシ、サルスベリフクロカイガラムシ、マテバシイケクダアブラムシ / コウチュウ目：クロウリハムシ、ドウガネブイブイ*、アオドウガネ、コメツキムシの仲間、ナミガタチビタマムシ / ハエ目：ハナアブの仲間、ハエの仲間 / チョウ目：ナガサキアゲハ、クロアゲハ、ジャコウアゲハ(含む幼虫)、アオスジアゲハ、ナミアゲハ、モンシロチョウ、キタキチョウ、ルリシジミ、ヤマトシジミ、ムラサキツバメ(幼虫)、ツマグロヒョウモン、コムスジ、アカボシゴマダラ、ウンモンオオシロヒメシャク、タケノホソクロバ*、アケビコノハ(幼虫) / ハチ目：コガタスズメバチ、モンズズメバチ、フタオビドロバチ*、ツチバチの仲間*、トビイロケアリ、アミメアリ

【クモ】シロカネイソウロウグモ、オナガグモ、ビジョオニグモ、ジョロウグモ、アシナガグモの仲間、ヤチグモの仲間、ヒラタグモ、アリグモ

【植物(花)】オモダカ科：オモダカ* / ヒガンバナ科：ハナニラ / ツユクサ科：ツユクサ / カヤツリグサ科：カヤツリグサ、ヤマイ / イネ科：オヒシバ、シマスズメノヒエ、マコモ / ブドウ科：ヤブカラシ / ミソハギ科：サルスベリ、ミソハギ* / アカバナ科：ヒレタゴボウ、アレチマツヨイグサ、ユウゲショウ / マメ科：ツルマメ、ムラサキツメクサ、シロツメクサ / タデ科：イヌタデ / アカネ科：ヘクソカズラ / キツネノマゴ科：キツネノマゴ / キク科：ノコンギク、アメリカタカサブロウ、ブタナ、ノグシ、セイヨウタンポポ

【植物(果実)】アサ科：エノキ / モクセイ科：トウネズミモチ

9月の観察アルバム



今月のがたんのテーマは、「生き物たちの護身術」でした。歩きながら見つけた生き物がどのように天敵から身を守っているのか観察しました。約200mの区間をじっくり観察しました。植物の毒を取り込んで天敵から身を守るジャコウアゲハの幼虫をはじめ、アリを誘引して身を守るムラサキツバメの幼虫など、いろいろな生き物の「護身術」を観察することができました。



今月の案内人
齊藤安行



① 観察会スタート前、風切羽を換羽中のミサゴが手賀沼上空を飛び去りました



② サルスベリの樹幹に出来た蟻道移動していたアミメアリ



③ アリを誘引して天敵から身を守っていたムラサキツバメ幼虫

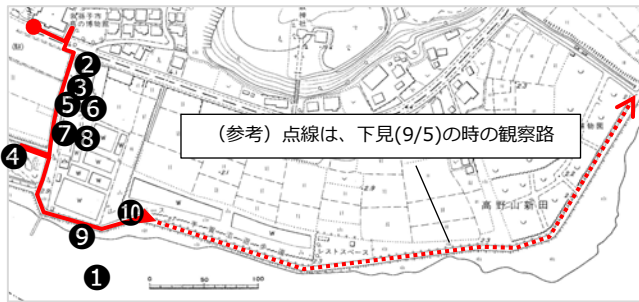


④ クスノキの葉のダニ部屋の上に群がっていたシロカイガラムシ

歩いたルートと観察した生き物



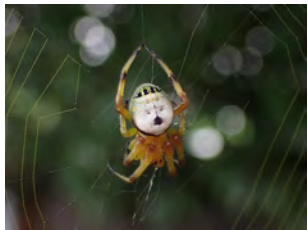
⑤ 糸を張った天幕を剥がすとヒラタグモが隠れていました



(参考) 点線は、下見(9/5)の時の観察路



⑥ オナガグモはクモの巣にひっかかったマツの葉にそっくり



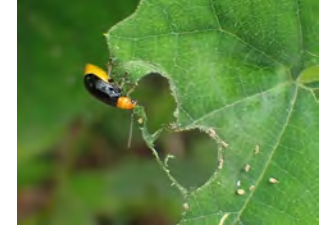
⑦ ビジョオニグモは近づくると網の外の隠れ家にすぐ逃げ込みました



⑧ 毒を持つカバマダラに擬態したツマグロヒョウモン



⑨ 毒針を持つモンズメバチは黒と黄色の警戒色



⑩ カラスワリの葉から浸み出す汁を遮断してから内側の葉を食べるクロウリハムシの円形の食痕

今月の鳥 ミサゴ (タカ目ミサゴ科)

ミサゴは魚食性の猛禽類で、空中でホバリングして水中の魚に狙いをつけ、豪快にダイビングして捕らえます。水中に飛び込む瞬間、両足を前方に突き出し、ねらった魚をしっかりとつかむと再び飛び上がり、食べやすい場所に運びます。鋭い爪を持つ4本の丈夫な足指は十字型に大きく開き、足裏にはスパイク状の突起がたくさんあるので滑りやすい魚をしっかりとおさえることができます。

手賀沼では2004年以降、姿を見かけるようになりました。鳥の博物館が行っている手賀沼の鳥類調査では、通年観察記録がありますが、特に冬期になると現れる頻度が高くなり、沼の中の杭の上で休む姿や上空を飛ぶ姿を毎日見るできるようになります。



捕らえた魚を運ぶミサゴ